

ら、その適用を受けることが見込まれ、財政運営は深刻な状況下で厳しさが増しております。

町民により身近なサービスの提供に努力しておりますが、この状況を乗り切るためにも、行財政改革の推進について一層のご理解をお願い申し上げます。

サミットの成功に向けて

次に北海道洞爺湖サミットの開催であります。

本年はサミットという全世界が注目する大きな舞台の幕が開かれる飛躍の年でもあります。



「おもてなしの心で世界へ環境と観光のまち洞爺湖」をキーワードフレーズに、町ぐるみの北海道洞爺湖サミット推進町民会議で準備を進めておりますが、洞爺湖周辺地域の自然環境やいろいろな取り組みが世界に発信され、紹介される絶好の機会でもあります。

町民会議では、100日前や50日前イベントなどの各種イベント行事や、世界各国から訪れる方々を花いっぱいのきれいなまちでお迎えしようと計画を進めておりますが、町民の皆様には、サミットの成功を期するためにも、町民一人ひとりの協力が大きな力となるものと信じておりますので、身近なところからできる行動をお願い申し上げます。このサミット開催が今後の観光振興、地域振興につながり、大きく寄与することを期待するものであります。

財政の健全化と 予算編成

平成20年度の予算編成については、前年度同様、歳入不足により、非常に厳しい財源対策を余儀なくされました。このため

人件費の独自削減、経常経費のさらなる削減、新規事業の抑制を図るなど将来の財政基盤を念頭に編成したところであります。

また、地方公共団体の健全化に関する法律の施行により、本町においては、実質公債費比率がこの法律の適用になる平成20

予算のあらまし

一般会計、各特別会計、企業会計を含めた予算総額は、

118億8千926万円で、前年度当初予算額137億8千194万円に比べ13・7%の減となっております。

歳入の主体である町税収入が税源移譲により若干の増とはなりますが、依然として景気の低迷により伸び悩んでおり、また、有珠山噴火災害に起因する災害復旧及び復興事業に伴う町債借入れによる公債償還費の増により非常に厳しい予算となりました。

特に、一般会計当初予算は、77億7千97万円で、前年度当初予算額78億7千599万円に比べ1・3%の減です。歳入にお

年度決算で、早期健全化基準の25%以上となる見込みであるため、平成19年2月に策定した、公債費負担適正化計画に基づき、早期低減化に向け、本年度においても起債借入事業の抑制を図ってまいります。

ける町税、地方譲与税、地方消

費税交付金、自動車取得税交付

金、地方交付税等を合わせた経常一般財源は、町税及び地方交付税の増などが要因となり、前年度比5・0%の増となっております。一方、歳出における人件

費、扶助費、公債費を合わせた義務的経費は、扶助費及び公債費の増が主な要因となり、前年度比1・4%の増となっております。投資的経費（普通建設事業）については、前年度比16・4%減となっていて、これについては有珠山噴火災害後の復興関連事業が終了したことによるものです。また、歳出削減を図るため経常事務経費、各公共施設の維持管理費の減額、特別職、議

会議員報酬の削減、一般職員の

人件費独自削減、町内各種団体に対する補助交付金の削減などに引き続き取り組むこととして

います。

しかしながら、恒常的財源不足は解消されておらず、歳入不足補てんのため財政調整基金、減債基金及び合併地域振興基金から7億5千万円を、一定の事業に充てるため特定目的基金から5千335万円の基金取り崩しを予定しています。

昨年成立した地方財政健全化法における早期健全化団体の指定は免れませんが、法律の適用がなされる平成20年度決算までに、財源不足の解消を図るため歳入の確保、更には歳出削減に努めることとしています。

このため、町民の皆様にはがまん痛みを強いる結果となること予想されます。財政運営に対するより一層のご理解とご協力をお願いします。

